

学校だより

令和2年12月24日



第9号

TEL241-2605

甲府市立大里小学校 文責:長谷川和典

ご支援・ご協力ありがとうございました！
「安全で楽しい冬休み」に！！

1年間で一番長かった2学期も、もうすぐ終わろうとしています。新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けましたが、修学旅行や林間学校などの校外学習・運動会・陸上記録会・フェスタ大里などの行事を実施できました。子供たちも、それぞれの活動に一生懸命取り組み、たくさんの思い出を作ることができました。

一人一人の子供たちには、頑張ったことやできるようになったことがたくさんあります。例えば、物事に粘り強く取り組むようになったり、自分の役割を責任をもってやるようになったりしたら、それも大きな成長の一つです。学校では各学級で2学期の振り返りを行いました。家庭でもぜひ2学期をしっかり振り返り、どんなに小さな一歩でも認めて、ほめて、励ましてあげてほしいと思います。

12/26からいよいよ冬休みです。1/11の成人の日まで、子供たちにとって本当に楽しい17日間の冬休みになります。休み中の生活の留意点や家庭学習の取組については、各学年からのお知らせや個別懇談などでも連絡させていただきました。年末年始は気ぜわしくなり、事故等も多くなります。子供が巻き込まれる事故や事件も増えます。保護者の皆様には、年の瀬から新年に向けて何かとお忙しいこととは思いますが、くれぐれも**安全第一**で楽しい冬休みになるよう家庭でのご指導をよろしく願います。また、地域の皆様にも子供たちの安全を温かく見守っていただければ幸いです。

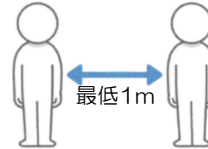
よいお年を
お迎えください。



★ 油断は禁物 ★
-引き続きの健康管理をお願いします-

感染防止の3つの基本

(1) 身体的距離の確保



(2) マスクの着用



(3) 手洗い



第3波といわれているように、新型コロナウイルス感染症の感染者が全国的に増え、冬休みを前に非常に厳しい状況にあります。

この時期、クリスマスや大晦日、お正月、初詣、お年玉・・・子供たちにとっては楽しみにしていることがたくさんあります。大人も子供も多くの人と一緒に、一年の労をねぎらい、新年を迎える慶びを心から分かち合うのがこの時期です。

しかし、今年はそうはいかないようです。感染リスクとは常に隣り合わせです。残念ですが、時には、感染を避けるために自粛して、例年通りのことができないということもあるかもしれません。

それでも、安全で安心な日常を取り戻すためにも、油断は禁物です！ 冬休みに入っても、身体的距離の確保やマスクの着用、手洗いといった、一人一人の**基本的感染対策**はもとより、**日常生活を営む上での基本的な生活様式**に留意し、引き続き子供たちの健康管理、感染予防をお願いします。



外出控え 密集回避 密接回避 密閉回避 換気 咳エチケット 手洗い

風邪・インフルエンザ対策もしっかりして、健康で快適な冬休みを過ごしましょう。

第3学期始業式 1/12 (火)

大里小児童全員が笑顔で会える

ことを楽しみにしています！！

フェスタ大里～形と違う形で～

11/27（金）にフェスタ大里を開催しました。感染リスクを避け、中止という選択肢もありましたが、全校の子供たちが楽しみにしている児童会行事だけに、ぜひ開催したいという6年生の子供たちと担任の強い思いから、今回の開催となりました。

当然、例年通りの形では開催できませんので、ゲームの合間ごとの手指消毒や密にならないゲーム内容の選定など、様々な感染予防の対策を工夫して実施しました。

1年生の感想にもあるようにとても楽しい会になりました。これも、全校のことを考え、準備を進めてきた6年生の力の成果です。この思い、この頑張りをぜひ5年生が受け止め、次年度に繋げていくこ



とを願っています。

【1年生の感想から】

「いろいろ楽しいゲームがたくさんできてよかったです。またやりたいです。」

【6年生の感想から】

「新型コロナウイルス感染症が感染拡大している中、フェスタ大里を行うことができました。1年生から5年生までが楽しんでくれていたらうれしいです。」

6年生のみなさん、ここからは卒業に向けて頑張っていきましょう。」

人生に必要な知恵は すべて幼稚園の砂場で学んだ

All I Really Need to Know. I Learned in Kindergarten.

人間、どう生きるか、どのように振る舞い、どんな気持ちで日々を送ればいいのか、本当に知っていなくてはならないことを、わたしは全部残らず幼稚園で教わった。人生の知恵は大学院という山のてっぺんにあるのではなく、幼稚園の砂場に埋まっていたのである。わたしはそこで何を学んだのだろうか。

何でもみんなに分け合うこと。

ズルをしないこと。

人をぶたないこと。

使ったものは必ずもとのところへ戻すこと。

散らかしたら自分で後片付けをすること。

人のものに手を出さないこと。

誰かを傷つけたら、ごめんなさい、と言うこと。

食事の前には手を洗うこと。

トイレに行ったらちゃんと水を流すこと。

焼きたてのクッキーと冷たいミルクは体にいい。

釣り合いのとれた生活をする…毎日、少し勉強し、少し考え、少し絵を描き、歌い、踊り、遊び、そして少し働くこと。

毎日必ず昼寝をすること。

表に出る時は車に気をつけて

手をつないで、離ればなれ

にならないようにすること。

不思議だな、と思う気持ちを大切にすること。



これは、アメリカの哲学者ロバート・フルガムという人の随筆の一部です。

30年ほど前のことです。アメリカ社会が様々な要因から混迷を極め、多くの人々が大きなストレスを抱えていたとき、この作品が出版されベストセラーとなりました。この作品は、当時の人々に安心と生きることへの自信を与えたと言われています。

今年一年、コロナ禍で世界が混沌とする中、多くの人々がストレスを抱えながら生活してきました。変化が激しく、おびただしい情報の中で生きていると、何が正しいのか、どうすることがいいのか、よく分からなくなってしまうこともあります。そんな時は、そうすること（あるいはしないこと）が、「人としてどうなのか」という原点に立ち返って考えてみると、本当に大切なことが見えてきたりします。